

平成31（令和元）年度

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

事業報告書

学校法人 佐久学園

学校法人 佐久学園
平成 31（令和元）年度 事業報告書 目次

I 法人の概要	1
1. 設置する学校（設置学校等及びその所在地）	1
2. 設置の目的等	1
3. 設置する学校・学部・学科の入学定員と学生数の状況	1
4. 組織	2
5. 役員の概要	2
6. 教職員の概要	2
7. 沿革	3
II 本年度事業計画の基本的なスタンス	4
III 事業実績	
1. 佐久大学再編の道筋の明確化	4
2. 学生募集対策の強化	5
3. 教育・研究環境の重点整備	5
4. 地域・社会への貢献と連携	6
5. 組織運営体制の強化	8
6. 財政基盤の確立	9
III 財務の概要	10
IV 参考資料	
1. 令和2年度入学試験結果	11
2. 国家試験結果	13
3. 進路決定状況	14
4. 平成 31（令和元）年度 年間学事報告	16

I 法人の概要

1. 設置する学校（設置学校等及びその所在地）

○佐久大学

〒385-0022 長野県佐久市岩村田 2384 番地

○佐久大学信州短期大学部

〒385-0022 長野県佐久市岩村田 2384 番地

2. 設置の目的等

[目 的]

○佐久大学

本学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める高等教育にふさわしい大学として、学術を教授研究し、幅広い視野と豊かな教養を育み、道徳的及び応用的能力を展開させることによって、社会に貢献し得る有為な人材を育成することを目的とする。

○佐久大学信州短期大学部

教育基本法及び学校教育法並びに本学設立の精神に則り、人格を陶冶し、豊かな一般教養と精選された専門知識を教授し、社会に貢献し得る有為な人材を育成することを目的とする。

[建学の精神]

知を求め 徳を高め 愛に生きよう

[教育理念]

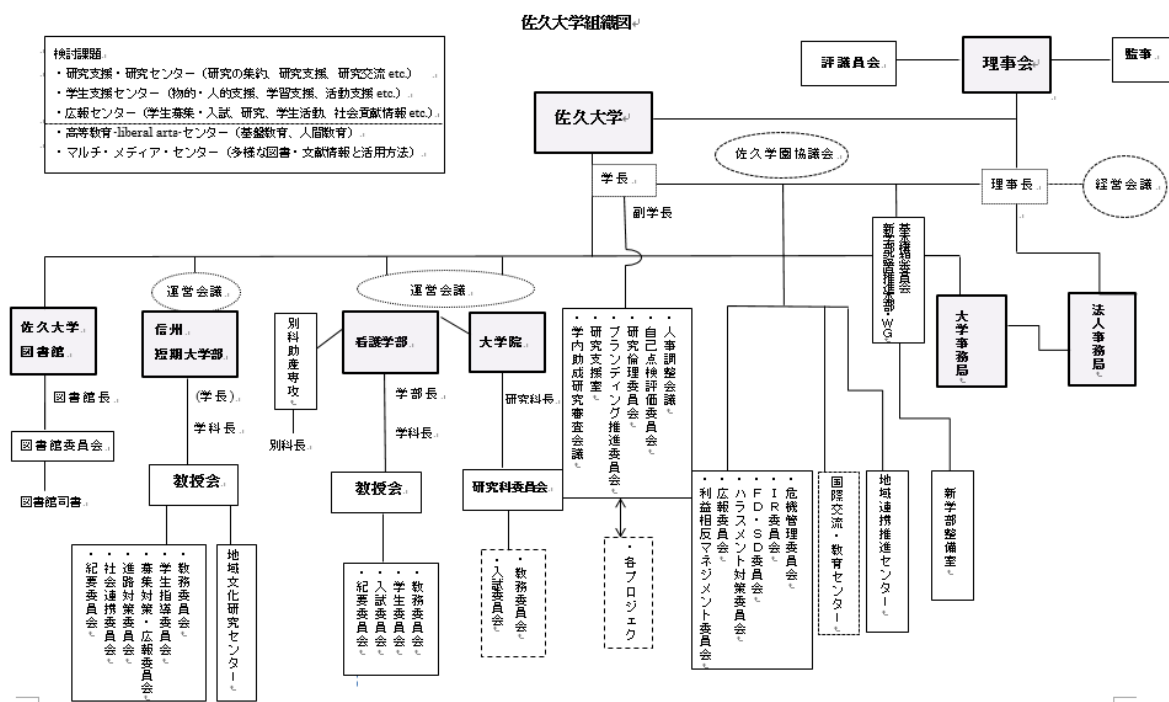
自律 創造 友愛

3. 設置する学校・学部・学科の入学定員と学生数の状況（令和元年5月1日現在）

学校名 学部等名	入学 定員	収容 定員	学生数					
			1年	2年	3年	4年	計	
佐久大学								
大学院看護学研究科	10	20	7	13	—	—	20	
看護学部看護学科	90	360	85	96	92	103	376	
別科助産専攻	10	10	12	—	—	—	12	
計	110	390	104	109	92	103	408	
佐久大学信州短期大学部								
福祉学科	50	100	23	41	—	—	64	
計	50	100	23	41	—	—	64	
合 計	160	490	127	150	92	103	472	

※委託研修生及び科目等履修生は除く

4. 組織 (平成 31 年 4 月 1 日現在)



5. 役員の概要 (令和 2 年 3 月 31 日現在)

理事長	盛岡正博
佐久大学長	堀内ふき
佐久大学信州短期大学部学長	堀内ふき

	定数	現員
理事	6～10	8 (8)
監事	2	2 (2)
評議員	13～22	18 (17)

() 内は前年度

6. 教職員の概要 (令和元年 5 月 1 日現在)

	佐久大学			佐久大学信州短期大学部			法人計		
	教員	職員	計	教員	職員	計	教員	職員	計
専任	44(42)	15(15)	59(57)	9(9)	3(3)	12(12)	53(51)	18(18)	71(69)
非常勤	71(58)	9(8)	80(66)	38(20)	0(0)	38(20)	109(78)	9(8)	118(86)
計	115(102)	24(23)	139(123)	47(29)	3(3)	50(32)	162(129)	27(26)	189(155)

() 内は前年度

7. 沿革

昭和39年 2月	学校法人佐久学園設立認可（位置 長野県佐久市岩村田951番地） 佐久高等学校設置認可
昭和39年 4月	佐久高等学校全日制課程普通科を開設（位置 長野県佐久市岩村田951番地）
昭和62年12月	信州短期大学設置認可
昭和63年 4月	信州短期大学経営学科を開設（位置 長野県佐久市岩村田2384番地）
平成 6年12月	佐久長聖中学校設置認可
平成 7年 4月	佐久高等学校を佐久長聖高等学校に名称変更 佐久長聖中学校を開設（位置 長野県佐久市岩村田3638番地）
平成10年 7月	法人事務局を移設（位置 長野県佐久市岩村田2384番地）
平成13年 4月	信州短期大学経営学科を経営情報学科に名称変更 信州短期大学経営情報学科に専攻科経営情報専攻を開設
平成14年 4月	信州短期大学ライフマネジメント学科開設
平成16年 4月	佐久長聖高等学校並びに佐久長聖中学校を学校法人聖啓学園へ設置者変更
平成18年 4月	信州短期大学ライフマネジメント学科を介護福祉専攻と健康・スポーツ専攻に専攻分離
平成19年12月	佐久大学設置認可
平成20年 4月	佐久大学看護学部看護学科を開設（位置 長野県佐久市岩村田2384番地）
平成21年 4月	佐久大学別科助産専攻を開設
平成22年 4月	信州短期大学経営情報学科を総合ビジネス学科に、ライフマネジメント学科を介護福祉学科に名称変更
平成23年10月	佐久大学大学院設置認可
平成24年 4月	佐久大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）開設 信州短期大学を佐久大学信州短期大学部に名称変更
平成25年 4月	佐久大学信州短期大学部総合ビジネス学科及び専攻科経営情報専攻を廃止
平成28年 4月	佐久大学信州短期大学部介護福祉学科を福祉学科に名称変更
平成30年 2月	佐久大学大学院看護学研究科看護学専攻にプライマリケア看護コースを開設、 特定行為研修を含むNP（診療看護師）育成開始 厚生労働省の特定行為研修指定機関となる

II 本年度事業計画の基本的なスタンス

本年度の計画は、佐久学園が、短期大学部創立 31 年、看護学部創立 11 年の歴史に立ち、新学部設置構想を踏まえ、別途策定する中期計画に沿って、新たな発展の道を目指す第一歩となるものである。その方向は、具体的には、看護師の養成を行う佐久大学看護学部と介護福祉士の養成を行う短期大学部福祉学科の教育資源と蓄積を踏まえ、令和 3 年 4 月開設予定の新学部（ヒューマンケア学部）設置によって、広範な「ケア」に関わる、時代の新しいニーズに対応できる人材の育成を図ることで、小さいながらも、さらに高いレベルで地域社会に貢献できる保健医療福祉の総合大学への転換を図ろうとするものである。

ヒューマンケア学部の設置も、短期大学部の再編も、新しい時代・地域のニーズに応えると同時に、ケア教育の統合による専門職教育のレベルアップを図り、学園全体の収容定員の増加によって、安定した経営基盤を確立し、次の発展につなげるための重要な道筋の一つとなるものである。

それ故に、これらの計画を軌道に乗せ、その確実な実現にむけた取り組みが、本年度の最重要課題ということになる。

平成 31（令和元）年度の事業実績は、以下のとおり。

III 事業実績

1. 佐久大学再編の道筋の明確化

(1) 基本コンセプト

平成30年3月の佐久大学基本構想委員会答申（「佐久大学の四年制新学部の設置にあたっての提言」）に基づく、新設のヒューマンケア学部（ヒューマンケア科学部より変更）を含めた、学園全体の再建の方向は、保健・医療・福祉の専門職から地域、民間企業まで含めた広範なケア専門職の養成にあることから、学園におけるヒューマンケアを、「ヘルス・看護ケア」、「福祉的ケア」、「社会活動場面におけるケア」とし、基本コンセプトに位置づけた。

(2) ヒューマンケア学部の設置に向けた具体的な取り組み

令和2年3月の文部科学省への設置認可申請に向け、教員確保や施設整備計画始めとし、特色ある教育の柱となる地域に根差した教育の実践方法、ヒューマンケアの統合教育に向けたカリキュラムの策定等を行った。また、ヒューマンケア学部を含めたヒューマンケア教育が実践できる環境を整えるため、地元自治体からの補助金獲得に取り組み、令和3年4月に開設する上での財政面の目途をつけた。

結果として、令和2年3月に文部科学省への設置認可申請が受理された。

(3) 短期大学部の再編の方向性

保育士、介護福祉士養成については、福祉学科を専攻分離することとし、ケアの専門職養成教育を強力に打ち出すことで定員充足を図り、地域へより多くのケア専門職人材を輩出すべく、必要な施設設備の充実または改修計画、カリキュラムの策定、専門教員の確保を行った。

(4) 看護学部、大学院看護学研究科の更なる発展

看護学部は、この11年間に約800名の看護職が巣立ち、病院や施設、保健所等で活躍しながら地域に貢献しており、その活躍は、佐久大学の社会における立場は揺るぎないものとなっており、大学の評価を高めている。基盤教育におけるヒューマンケア学部との連携を模索しながら、さらに特色ある教育・研究活動を実践し、発展を加速したい。

中でも、大学院看護学研究科は、看護師の特定行為研修を含むプライマリケア看護コースが完成年度を迎え、このコースの修了生4名全員（うち1名は委託研修生）が、日本NP教育大学院協議会（JONPF）が実施するNP（診療看護師）資格認定試験に合格するなど大きな実績を

上げた。高度実践者としての看護職の役割拡大に応えるものとして、既設の修士論文コース修了生と合わせ、大きな社会貢献が期待される。

(5) 教育・研究活動を通じた大学のブランディング化

2018年問題がクローズアップされ、少子化が進行し、生き残りをかけた大学間の競争がさらに激化してきている中、教育面で他大学との差別化を図るだけでなく、様々な教育研究面での成果が地域社会に還元され、受け入れられ、大きな評価が得られる大学のブランディング化が急がれる。ヒューマンケア学部や短期大学部での新たな人材養成など、地域のニーズをとらえた変革を実現していくとともに、特にヒューマンケア学部を開設することにより、「3福祉士」といわれる、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士を養成する高等教育機関として、ブランド力をより強く発信できることになる。また、平成29年11月に文科省に採択された、私立大学研究ブランディング事業（事業名：健康長寿（佐久）を牽引する「足育（あしいく）」研究プロジェクト）により、県内はもとより、県外自治体や議会からの視察も多く受け入れるようになり、大学のブランディング化を強力に推進した。

2. 学生募集対策の強化

(1) 目標

経営の安定が入学者の確保にあることを、改めて全教職員が再確認し、大学、短大ともに、学生募集の委員会活動など積極的に取り組んだ。志願者確保の取り組みでは、大学では事業計画目標である入学定員の2.5倍に対して2.41倍、短大では目標である入学定員の1.0倍に対して0.7倍であった。

(2) 入試及び広報活動の体制

1) 看護学部・短大の入試業務と全学的な広報業務の見直し

高校訪問については、大学案内、オープンキャンパス案内、新学部関連パンフレット作製などの機会を捉え、県内を中心に隣接県の高校への訪問を粘り強く実施。特に短大については、事務職員と教員が連携し積極的に高校訪問を行い募集広報に取り組んだ。なお、高校訪問の企画・実施等に関する強化対策として、高校教員経験者による助言や実行計画、事業計画書記載の学生確保戦略チーム組織化については、次年度への継続課題となる。

2) 教職員の意識改革と広報活動の展開

学生確保の戦略的課題・ポイントの洗い出しについては、単発での取り組みはできたものの、通年活動とするための教職員活動マニュアルを作成するまでには至らなかった。次年度への継続課題とする。また、大学、短大が一体となったオープンキャンパスの企画・運営、新学部も含めた一体的な広報活動の強化等については、学内的に十分な連携がとれた活動とするまでには至らなかった。

(3) 総合的戦略

学内外への情報発信の一つの柱となる、ホームページについてリニューアルを行い、国際活動など幅広い活動を積極的に広報していくベースを確立した。掲載内容の充実については次年度に向け総合戦略の中で整理・強化を図っていききたい。

3. 教育・研究環境の重点整備

(1) 大学のステークホルダーの中でも最も重要なのは学生である。大学に対する学生の満足度は、大学の経営指標の基本である。「授業に関するアンケート」や「キャンパスライフに関するアンケート」は、学生の声を広く汲み取り、授業内容や方法、学生の学修行動などを把握・検証し、授業や学生支援の改善・見直しに役立てることを目的としている。今年度は、大学のキャンパスライフアンケートについては、回答率96.4%であり、レストランの席数増要望や学校バスの運行時刻を授業時間と連動して欲しいなどの要望に対して、改善し、学生満足度の向上を図った。アンケートにおける学生の大学生活における満足度は事業計画目標の80%を大きく超える85.6%であった。大学院生アンケートでは、これまで

要望が出ていた科目の開講時間、研究指導の方法などでの課題はなく、一定の学修環境が整えられてきているといえる。

(2) メリハリのあるサービス管理－教育・研究・生活

コンプライアンスを重視し、ハラスメントなどがない安心して働ける職場環境の整備については、昨今の社会からの要請により、教職員の意識の浸透は図られてきている。メリハリのあるサービス管理については、土日などの休日出勤については、平日での振替休日の取得を基本とし、適正なワークライフバランスに向け取り組んだ。教職員の「忙しさ」の調査・分析などについての取り組みは不十分で、労働時間の削減の観点から、ワークシェアリング、時間外勤務の削減については、理解はされているものの、まだまだ実態が伴っていないため、より具体的な方策により、働き方改革を推進していく。

(3) 教育研究環境の整備

教育研究環境の充実と安全で快適な学修環境の実現のため、必要な整備を実施した。

①新学部開設に向けた新校舎建設及び既設校舎改修計画の策定（令和2～3年度）

新校舎建設及び既設校舎改修計画の策定については、新学部設置推進本部会議で検討した後、学園協議会、理事会及び評議員会や教授会等の承認を得て決定された。令和2年度には新校舎建設及び1号館と体育館付帯設備の改修、令和3年度には2～5号館の改修を行う。また、施工業者の選定を適正かつ公正に行うため、佐久学園建設委員会を発足し、その選定を行った。

②Windowsサポート終了に伴うパソコンの入替（各教室、研究室、事務室）

Windows7サポート切れに伴うパソコンの入替については、授業用は、ハードウェアの更新により実施した。研究室、事務室の業務用パソコンは、ハードウェアは更改せず（据置）、ソフトウェアのみの更新とすることで、更改費用の大幅削減ができた。

③公用車の維持管理方法の見直し

公用車については、大学バス（2台）を含めた十数台の公用車をメンテナンスリースへ切り替えた。これにより、更改費用が安価となる上に、公用車全体の運営費用が一定となった。さらに、総務課における日常的な公用車関連の事務稼働が削減できた。

(4) 研修生等の宿泊施設の整備

国内外からの研修生等の宿泊施設として、県職員住宅を5月に購入。必要な改修を行い、留学生、研修生の宿舎として本格運用を開始した。これにより、留学生・研修生の滞在費の負担が大幅に削減できることになり、一層の受入れが推進できることとなった。

4. 地域・社会への貢献と連携

大学と地域・社会の好循環による学園の安定的発展を図るために、引き続き、広く社会・地域貢献活動を行うと同時に、その充実に努め、多様な連携を推進する。

(1) 一般市民・住民

・公開講座 全4回の講座を行った。特に、11月16日の公開講座は、聖路加国際大学との包括連携協定記念公開講座として実施し約250名の市民の参加があった。

①9月7日（土）テーマ「姿勢や歩き方からわかるからだの不具合～予防と対処法～」

講師：市川彰氏（すみだクリニック）参加者：114名

②9月28日（土）テーマ「運動不足による肩こり（頭痛）や膝腰痛をやわらげる健康体操」

講師：半田秀一氏（身体教育医学研究所）参加者：101名

③11月16日（土）聖路加国際大学との包括連携協定記念公開講座

テーマ「血管を若くする生活とともに認知症も予防しよう」

講師：吉田俊子氏 桑原良子氏（聖路加国際大学）参加者：238名

④12月14日（土）テーマ平成29-31年度私立大学研究ブランディング事業

足育研究プロジェクト「足の健康づくり」

講師：内田みさ子氏（土浦協同病院）

講師：橋本佳美氏 上野良子氏（佐久大学）参加者：101名

- ・信州短期大学部公開講座（開講時期10月～11月）各講座全4回
 - ①はじめてのWord 講師：三池克明（信州短期大学部講師）受講者6名
 - ②はじめてのExcel 講師：三池克明（信州短期大学部講師）受講者6名
 - ③パソコンでチラシ・ポスターデザイン 講師：三池克明（信州短期大学部講師）受講者12名
- ・教員免許状更新講習（7月～9月）
近隣の小中高等学校の教員向けに、教員免許状更新講習を行っているが、令和元年度は、必修、選択必修、選択科目あわせて、11講座を行い、636人の教員が受講した。
- ・喀痰吸引等研修（7月～3月）
地域において、現場から求められる介護職員の養成コースの喀痰吸引等研修を毎年実施している。今年度は、21名が7月の座学研修に始まり、3月末までの実地研修を修了することができた。

（2）保健福祉の現場

- ・看護研究塾 4月～9月まで月2回ペース全14回実施。参加者23名
- ・師長副師長等の参加が多い「SAKU看護管理研究会」2月1日（土）参加者25名
- ・信州介護学研究会 10月5日 参加：介護保険事業者23施設、学生をあわせて194名

（3）行政・自治体

- ・福祉・介護のつばさ事業（佐久市）
- ・佐久市足育推進協議会
足育サポートセンター（佐久大学内）毎週木曜日開所、来所者：55人（昨年度は38名）
他県からの視察受入：2回（福島県いわき市、愛知県大府市）
- ・佐久産業支援センター
月1回程度実施の「プレメディカルケア産業支援プロジェクト」への積極参加と会場提供。

（4）高大連携

- ・模擬授業（出前授業）、授業公開・参観の充実
- ・連携協定締結校の拡大
現在3校（丸子修学館高等学校、佐久平総合技術高等学校、小海高等学校）

（5）他大学

- ・聖路加国際大学との包括連携協定の締結 5月1日付
- ・タイのブラパ大学との連携協定の更新

（6）ブランディング事業

文部科学省採択の「私立大学研究ブランディング事業」最終年度にあたり、5月11日の開学祭で、学内外への情報発信の機会として、住民参加型の中間報告会を開催した。基調講演を高山かおる氏（足育研究会代表理事）、研究発表と外部の中間評価を受けた。また、12月14日（土）には、足育研究プロジェクト「足の健康づくり」の佐久大学公開講座を実施し、101名の市民の参加があった。

さらに、本事業の継続的展開を図るために、研究プロジェクトを組織して、科研費等の獲得に向けた共同研究に結びつけることと並行して、足健康診断、健康シューズの開発、市民・子どもの足健康教育、行政の足健康促進計画など、広範な事業の発展を目標に、さらなる補助事業にチャレンジすることが次年度以降の目標となる。

（7）その他

- ・ボランティア活動については、台風19号による近隣地区における河川氾濫による大きな被害があったが、多くの学生ボランティアが災害復旧に参加し、海外からの研修生（エジプト）も参加するなど、積極的に活動した。ボランティア・センターについては、次年度に構想を実現するべく取り組む。

5. 組織運営体制の強化

1) 法人（理事会・評議員会・監事）の改革

- ・理事・評議員・監事の機能の活性化を図る。
- ・具体的な理事役割の整理と設定を図る。

4人の外部理事について、それぞれ分掌業務を担当することとし、財務（予算、決算、日常的な経理処理等）、広報（新学部開設準備シンポジウムの開催等）、地域連携（寄附金募集等）、経営企画（経営委員会等）の範囲で学園運営に、より深くかかわるよう、活性化を図った。監事については、毎月の監事監査により、学園全体の動きを把握したうえで、理事会・評議員会への出席がなされるため、発言機会も増加し、監査機能が強化されつつある。評議員については、次年度への課題として取り組む。

- ・法人ガバナンスの強化を図る。

事務局の業務執行においては、業務マニュアルの未整備部分の多いことが大きな課題だったが、物品の購入から支払いまでの業務フローを見直し、明確な文書化の上、運用していることは成果である。しかしながら、未整備部分はまだ多く、継続した取り組みが必要である。財務報告については、勘定科目の明確化を行ってきたことで、当年度と前年度の比較が可能となり、財務諸表の信頼性が向上してきた。

コンプライアンスの徹底については、FD・SD活動により対応しており、学園におけるCSR（社会的責任）の根幹を揺るがすような、違反行為は起きていない。引き続き取り組んで行く必要がある。

2) 事務局体制の見直し

- ・ヒューマンケア学部開設に対応した事務組織の再編成については、目下の対応に追われ、十分な検討ができなかった。最も優先されるべきステークホルダーである学生へのサービスの維持向上を念頭に、教学面との意識合わせによる事務局体制の在り方の検討は、令和2年度から始まる中期計画の中で実施することとなった。

3) 教職員の教育・研修の強化

- ・教職員の教育・研修については、教員の研修については、件数が増えていることから強化について一定の評価ができる。一方で、事務職員の教育の面では、研修機会が増えているとは言えず、業務品質の向上を図る意味でも次年度での取り組み強化が課題である。また、大学の業務運営の特徴点であるFD・SD活動の連携（教職協働）も、具体的な取り組みでみると、改善が進まなかった。

4) 情報公開と危機意識の共有

- ・規程に関しては、運営実態やあるべき姿とのずれがあった際には、規程整備委員会を中心に、随時見直しを行った。今年度は、大学ガバナンスの透明度を上げるために、学長選考および教学幹部職の選考に関わる規程等の見直しを行った。内部的には学内のシステムで共有化は図れているものの、ホームページへの情報掲載等外部への情報公開にタイムラグがあるため、今後、円滑な情報公開への更なる取り組みが必要である。
- ・危機意識の共有化については、台風19号の被害への対応において、幹部教職員による危機管理体制初動の遅れなどの反省から、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大防止に向けた取り組みでは、学長を本部長とする危機対策本部会議を早い段階から立ち上げ、会議実施から議事録の学内周知までのサイクルを最短で回すルーティン化を定着させ、危機意識の共有に大きな成果があった（本部会議は令和元年度内に6回実施）。

5) 年度事業ごとの自己点検評価の実施

- ・短期大学部については、事業年度ごとの自己点検評価がルーティンとして年間スケジュールに設定されるなど定着化できている。看護学部については、令和2年度が第三者である大学認証評価機関による認証評価対応年度となっていることから、受審のた

めの組織体制を整え、客観的な評価資料となるデータ収集・分析を含め、自己点検作業を進めている段階である。

6) 研究費の管理体制の厳格化

文科省および日本学術振興会から指摘のあった不適切な科研費管理については、当局の現地（本学）調査も含め、一定の整理、対応が済み、終結させることができた。

それと並行して、事務処理及び業務執行については、不正防止計画や研究費取扱い要領の随時見直しを図り、厳格な運用を行っている。監査機能については、これまでの内部監査員の監査機能とは別に、より専門的な業務監査を行えるように、顧問税理士による外部監査を加え、実効性のある監査を行えるようにした。

6. 財政基盤の確立

1) 部門ごとの予算の積み上げと管理

- ・今年度から、事務局だけでなく、教員組織の各部門が予算積み上げから執行管理まで関与し、経費削減の意識の定着化を図った。しかしながら、予算執行については、実績状況の確認と以降の対応についての進捗チェックの厳格運用が不完全であったため、次年度では進捗管理の厳格化に取り組む。
- ・無駄を省くなど経費節減の意識化は、印刷物では電子による代替の工夫、カラー印刷は必要時のみ、単価設定の見直し等が始まった段階。来年度に向け具現化していく。

2) 財源確保の計画化と具体化

- ・寄附金
教育環境の充実や研究活動などの諸事業の活性化を目的とし、寄附金活動を行った。寄附金においては、地域連携担当理事を中心に、地元企業、区長会、地方自治体などに粘り強く働きかけた。COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大の影響から、寄附金の伸びは次年度に期待したい。
- ・補助金については、事業計画では平成30年度比約10%増の2億5千万円を目標としたが、採択に至らなかった補助金の影響もあり、1億6千5百万円に留まった。不採択となった要因（基準）をクリアできていないことが大きな理由である。学園としても重要な収入となることから、次年度はさらに積極的な取り組みを行う。

3) 経費抑制計画

- ・人件費については、直近5年間で最も大きな額となった。しかしながら、人件費率は新設のヒューマンケア学部での増員分を除くと、今年度をピークとして、下がっていく傾向となっていることから、継続して適正化を進めていく。
- ・人件費以外については、財務会議を月例で実施していったが、執行実績にタイムラグがあることもあり、有効かつタイムリーなコントロールができなかった。予算執行実績の提示方法については次年度の課題とする。

4) コストパフォーマンスの向上

- ・個々の職域、担当部署では良好なパフォーマンスが発揮されたが、学園全体として目標を設定して取り組むまでには至らなかった。
- ・FDについては、回数的には、前年度と同様な取り組みができた。
- ・事務局SDについては、下期は毎月1回のペースで事務局の課題に対する改善策などについてグループワークなども積極的に行い、自身の業務の振り返りと他課の担当者との情報共有の好機となった。令和3年4月には、ヒューマンケア学部も開設することから、現在、交流会はあるものの、看護学部・短期大学部・事務局とほぼ別々で取り組んでいるSDを学園で一本化を図る必要がある。

Ⅲ 財務の概要

今期の法人全体の学納金収入は、看護学科の入学者数の減少や本学の奨学生採用（授業料の減免者）が多かったことにより前年度に比べ13,208千円減少している（大学－13,710千円、短大＋502千円）。

補助金収入は、私立大学等改革総合支援事業の不選定、と経営強化集中支援事業の交付額減額、看護師特定行為指導者養成事業の助成終了により、前年度に比べ62,617千円の減少となった。また、補助活動収入においては民間活用委託訓練事業の受入数減少と、JICA研修の実施経費額の減少等により△14,941千円となった。結果として、今期の事業活動収入は892,548千円で前年に比べ81,687千円の減少となった。

事業活動の支出は、減価償却費の減少と年度当初に全体的な予算執行の見直しを行ったが、人件費、奨学費支出の増加により、1,019,007千円で前年と比べ12,735千円の増加。支出額は平成29年度を境とした1,000,000千円を超える金額で推移を続けている。

今期の基本金組入前当年度収支差額は126,459千円の支出超過、当年度収支差額においては、192,185千円の支出超過。

今年度資産総額は、4,688,440千円（前年比△138,397千円）、負債総額は1,018,574千円（前年比△11,938千円）となった。

《事業活動収支の経年比較》

(1) 事業活動収入の内訳

単位:千円

大科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
1 学納金収入	686,985	671,444	667,307	680,086	666,878
2 手数料収入	11,279	10,839	13,650	10,214	10,361
3 寄付金収入	5,445	5,547	5,128	6,778	7,893
4 補助金収入	197,226	140,462	160,150	223,671	161,054
5 補助活動収入	14,206	21,212	32,558	24,043	9,102
6 その他収入	14,757	24,715	25,813	29,442	37,260
合計	929,898	874,219	904,606	974,235	892,548

(2) 事業活動支出の内訳

大科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
1 人件費支出	563,119	555,062	613,709	610,800	647,127
2 事業活動経費支出 (内減価償却費)	328,396 (126,866)	336,927 (127,893)	400,406 (125,768)	392,832 (116,802)	366,116 (107,833)
3 借入金利息	0	0	0	312	3,572
4 その他支出		266		2,328	2,192
合計	891,515	892,255	1,014,115	1,006,272	1,019,007

(3) 事業活動収支差額

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
事業活動収支差額	38,383	△18,036	△109,509	△32,038	△126,459

IV 参考資料

1. 令和2年度入学試験結果

《 佐久大学看護学部看護学科 》

入試区分		募集定員	出願者数	受験者数	合格者	志願倍率	受験倍率	入学者数
特別選抜	指定校推薦	40	21	21	21	1.05	1.00	21
	公募Ⅰ		19	19	17		1.12	17
	公募Ⅱ		2	2	2		1.00	2
	社会人	5	0	0	0		0	
	帰国生徒		1	1	1	0.20	1.00	0
計	45	43	43	41	0.96	1.05	40	
一般選抜	前期 (2/3)	40	87	83	80	2.38	1.04	46
	後期 (2/27)		8	7	6		1.17	1
	計	40	95	90	86	2.38	1.05	47
センター利用	A (2/14)	5	73	73	62	15.80	1.16	3
	B (3/6)		6	6	6			2
	C (3/27)		0	0	0			0
	計	5	79	79	68	15.80	1.16	5
合計	90	217	212	195	2.41	1.09	92	

《 佐久大学看護学部 別科助産専攻 》

入試区分	募集定員	出願者数	受験者数	合格者	辞退者数	補欠合格者	入学者数
一般	10	13	13	5	—	—	5
佐久大学看護学部生推薦		6	6	5	—	—	5
計	10	19	19	10	0	0	10

《 佐久大学看護学部 大学院看護学研究科 》

入試区分	募集定員	出願者数	受験者数	合格者	入学者数
推薦	10	4	4	3	3
一般		2	2	2	2
計	10	6	6	5	5

《 佐久大学信州短期大学部介護福祉学科（福祉学科） 》

入試区分		募集定員	出願者数	受験者数	合格者	入学者数
A O			4	4	4	3
	計	0	4	4	4	3
推薦	特別奨学生	35	4	4	4	4
	指定校		8	8	8	8
	公募制		1	1	1	1
	自己推薦A		1	1	1	1
	自己推薦B		1	1	1	1
	自己推薦C		1	1	1	1
	計	35	16	16	16	16
一般	A日程 (2/3)	5	0	0	0	0
	B日程 (2/27)		0	0	0	0
	計	5	0	0	0	0
センター 試験利用	A日程 (2/10)	5	2	2	2	0
	B日程 (3/6)		1	1	1	0
	C日程 (3/27)		1	1	1	1
	計	5	4	4	4	1
社会人	A日程	5	0	0	0	0
	B日程		0	0	0	0
	C日程		0	0	0	0
	D日程		4	4	4	4
	計	5	4	4	4	4
帰国子女	A日程		0	0	0	0
	B日程		0	0	0	0
	計		0	0	0	0
留学生	A日程		6	6	5	2
	B日程		1	1	1	0
	計		7	7	6	5
合 計		50	35	35	34	29

2. 国家試験結果

《 看護学部看護学科 》

職種	全 国			佐久大学		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
106回 保健師	8,233	7,537	91.5%	31	25	80.6%
（うち新卒者）	7,318	7,050	96.3%	22	22	100.0%
106回 看護師	65,569	58,514	89.2%	101	99	98.0%
（うち新卒者）	59,320	56,175	94.7%	99	98	99.0%

《 別科助産専攻 》

職種	全 国			佐久大学		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
103回 助産師	2,105	2,093	99.4%	13	13	100.0%
（うち新卒者）	2,098	2,088	99.5%	12	12	100.0%

《 短期大学部福祉学科 》

職種	全 国			佐久大学		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
32回 介護福祉士	84,032	58,745	69.9%	30	28	93.3%
（うち新卒者）				28	26	92.9%

3. 進路決定状況

《 佐久大学看護学部看護学科 》 卒業生 99 名

区分	都道府県名	事業所名	人数			
			男	女	計	
就職	長野県	JA 長野厚生連 北信総合病院	1	3	4	
		JA 長野厚生連 長野松代総合病院	1	3	4	
		JA 長野厚生連 南長野医療センター		8	8	
		JA 長野厚生連 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	2	5	7	
		JA 長野厚生連 浅間南麓こもろ医療センター		2	2	
		JA 長野厚生連 佐久総合病院	5	8	13	
		JA 長野厚生連 北アルプス医療センターあづみ病院		3	3	
		JA 長野厚生連 富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院		3	3	
		JA 長野厚生連 下伊那厚生病院		1	1	
		独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター	1	2	3	
		地方独立行政法人 長野県立病院機構		1	1	
		地方独立行政法人 長野市民病院		2	2	
		日本赤十字社 長野赤十字病院		3	3	
		日本赤十字社 安曇野赤十字病院		1	1	
		日本赤十字社 諏訪赤十字病院		3	3	
		特定医療法人 新生病院		1	1	
		長野医療生活協同組合 長野中央病院		2	2	
		信州大学医学部附属病院		3	3	
		社会医療法人 中信勤労者医療協会 松本協立病院		1	1	
		医療法人芳州会 村井病院		1	1	
	岡谷市病院事業 岡谷市民病院		2	2		
	諏訪中央病院		1	1		
	伊那中央行政組合立 伊那中央病院		3	3		
	上伊那医療生活協同組合 上伊那生協病院		1	1		
	飯田市立病院		2	2		
	上田市		1	1		
	県内 計			10	66	76
	東京都	日本医科大学付属病院	1	1	2	
		医療法人社団松和会 池上総合病院		1	1	
		国家公務員共済組合連合会 三宿病院		1	1	
		順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター		1	1	
		学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院		1	1	
		東京都済生会中央病院	1		1	
戸田中央医科グループ 西東京中央総合病院			1	1		
埼玉県	社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院		1	1		
神奈川県	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院		1	1		
山梨県	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	2		2		
	公益財団法人山梨厚生会 山梨厚生病院		1	1		
新潟県	新潟県厚生農業協同組合連合会		2	2		
石川県	金沢医科大学病院		1	1		
県外 計			4	12	16	
就職 合計			14	78	92	
進学	佐久大学 別科助産専攻			5	5	
	金沢大学 養護教諭特別科			1	1	
	進学 合計			6	6	
その他				1	1	
総合計			14	85	99	

《 佐久大学 大学院看護学研究科 》 修了生 6 名

区分	都道府県名	事業所名	人数	
就職	長野県	信州大学医学部附属病院	1	1
		JA 長野厚生連 本所	1	1
		JA 長野厚生連 長野松代総合病院	1	1
		JA 長野厚生連 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	2	2
		JA 長野厚生連 佐久総合病院	1	1
就職 合計			6	6
総合計			6	6

《 佐久大学 別科助産専攻 》 修了生 12 名

区分	都道府県名	事業所名	人数		
			男	女	計
就職	長野県	JA 長野厚生連 北信総合病院		1	1
		JA 長野厚生連 南長野医療センター 篠ノ井総合病院		1	1
		JA 長野厚生連 佐久総合病院		3	3
		佐久市立国保浅間総合病院		1	1
		信州大学医学部附属病院		1	1
		社会医療法人財団慈泉会 相澤病院		1	1
	東京都	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター		1	1
	茨城県	総合病院 土浦協同病院		1	1
	石川県	石川県立中央病院		1	1
	愛知県	名古屋市立西部医療センター		1	1
就職 合計			12	12	
総合計			12	12	

《 佐久大学信州短期大学部福祉学科 》 卒業生 37 名

区分	都道府県名	事業所名	人数		
			男	女	計
就職	長野県	北信広域連合		1	1
		市立大町総合病院		1	1
		JA 長野厚生連 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	1		1
		JA 長野厚生連 浅間南麓こもろ医療センター		1	1
		社会医療法人 恵仁会	2	2	4
		社会福祉法人 恩賜財団済生会支部長野県済生会		1	1
		社会福祉法人佐久コスモス福祉会 佐久圏域障がい者就業・生活支援センターほーぶ		1	1
		社会福祉法人 佐久平福祉会		1	1
		社会福祉法人 ジェイエー長野会 さく地域事業本部	1	1	2
		社会福祉法人 ジェイエー長野会 特別養護老人ホームうつくしの里	1		1
		社会福祉法人 ジェイエー長野会 特別養護老人ホームローマンうえだ		1	1
		社会福祉法人 大樹会 高齢者福祉施設ベルポートまるこ	1	3	4
		社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会		1	1
		社会福祉法人 横浜社会福祉協会 障害者支援施設 千曲園	1	1	2
		社会福祉法人 横浜社会福祉協会 障害者支援施設 佐久療護園	1		1
		社会福祉法人 賛育会 特別養護老人ホーム豊野清風園		1	1
		社会福祉法人 安曇野福祉協会		1	1
		社会福祉法人 松本ハイランド 特別養護老人ホームゆめの里和田		1	1
		のぞみグループ	1		1
		信州うえだ農業協同組合		1	1
	美容院まりこ	1		1	
	東京都	社会福祉法人 東京武尊会	1		1
	栃木県	公益財団法人 栃木県体育協会		1	1
就職 合計			11	20	31
進学	東京都	日本社会福祉事業大学 社会福祉学部	1	1	2
		国際医療福祉大学 大学院		1	1
進学 合計			1	2	3
その他			1	2	3
総合計			13	24	37

4. 平成 31 (令和元) 年度 年間学事報告

(1) 佐久大学

4月5日(金)	入学式 後援会定期総会
4月5日(金)～10日(水)	定期健康診断
4月8日(月)～10日(水)	新入生オリエンテーション
4月10日(水)	学部2～4年：前期ガイダンス
4月11日(木)	前期授業開始
4月13日(土)	JA長野厚生連就職ガイダンス
5月8日(水)	学友会定期総会・学友会主催レクリエーション
5月11日(土)	開学祭(ブランディング中間報告会)
5月13日(月)～17日(金)	学部2年：EBN実習I
5月18日(土)～19日(日)	佐久総合病院 病院祭(学生ボランティア参加)
5月24日(金)	開学記念日
5月25日(土)	オープンキャンパス①
6月15日(土)	同窓会総会
6月13日(木)～26日(水)	学部2年：EBN実習II①②
6月22日(土)	オープンキャンパス②
7月1日(月)～7月26日(金)	学部4年：看護総合実習
7月17日(水)	後援会第1回役員会
7月20日(土)	オープンキャンパス③
8月2日(金)	前期授業終了
8月3日(土)	オープンキャンパス④
8月5日(月)～8月9日(金)	前期定期試験
8月10日(土)～9月25日(水)	夏期休業
8月19日(月)～8月28日(水)	学部4年：国際看護論タイ研修
8月24日(土)	オープンキャンパス⑤
8月29日(木)	別科：入試学内推薦選考
8月30日(金)	学部4年：後期ガイダンス
9月2日(月)～9月3日(火)	学部3年：小児看護学実習幼稚園・保育園実習
9月2日(月)～9月13日(金)	学部4年：地域看護学実習①
9月2日(月)～10月11日(金)	学部4年：卒業前看護実践講座
9月5日(木)	学部3年：ナーシングセレモニー
9月6日(金)	学部3年：後期ガイダンス
9月9日(月)～2月21日(金)	学部3年：領域別看護学実習
9月28日(土)	オープンキャンパス⑥
9月26日(木)	学部1・2年：後期ガイダンス
9月27日(金)	学部1・2年：後期授業開始
9月30日(月)～10月11日(金)	学部4年：地域看護学実習②
10月5日(土)～10月6日(日)	ぞっこんさく市(学生ボランティア参加)
10月14日(月)	学部4年：後期授業開始
10月20日(日)	大学祭(秋桜祭)(大学短大合同)
11月2日(土)	学部：指定校I・公募I推薦入試
11月7日(木)～20日(水)	学部2年：EBN実習II①②
11月9日(土)	大学院：前期入試
11月29日(金)	学部4年：看護学研究発表会

12月7日(土)	別科：一般入試、学部：公募Ⅱ・指定校Ⅱ・社会人 ・帰国子女・留学生
12月12日(木)	学部4年：後期授業終了
12月13日(金)	学部4年：後期定期試験
12月18日(水)	学友会クリスマス会（大学短大合同）
12月20日(金)	学友会長選挙
12月27日(金)～1月5日(日)	冬期休業
1月18日(土)～19日(日)	大学入試センター試験
1月25日(土)	大学院：後期入試
1月29日(水)～30日(木)	補講期間
1月30日(木)	学部1・2年：後期授業終了
1月31日(金)～2月7日(金)	学部1・2年：後期定期試験
2月3日(月)	学部：一般前期入試（本学・長野・松本・甲府・高崎 ・上越会場）
2月8日(土)	春期休業開始
2月13日(木)	助産師国家試験
2月14日(金)	保健師国家試験
2月16日(日)	看護師国家試験
2月25日(火)	学部3年：保健師科目履修者選考
2月27日(木)	学部：一般後期入試
2月28日(金)	学部・別科：卒業者発表
3月9日(月)	学部4年：卒業オリエンテーション
3月14日(土)	卒業式・修了式
3月18日(水)	後援会第2回役員会
3月19日(木)	保健師・助産師・看護師国家試験合格発表

(2) 佐久大学信州短期大学部

3月29日(金)	2年：前期ガイダンス
4月1日(月)	2年：前期授業開始
4月4日(木)	入学式・定期健康診断 後援会定期総会
4月5日(金)	1年：新入生オリエンテーション、2年：定期健康診断
4月8日(月)	1年：前期授業開始
5月6日(月)～5月10日(金)	前期授業参観・公開
5月11日(土)	学友会：定期総会・開学祭(学友会主催レクリエーション)、 ブランディング中間報告
5月17日(金)	開学記念日
5月20日(月)～6月17日(月)	2年：第2段階実習
5月25日(土)	オープンキャンパス
6月22日(土)	オープンキャンパス
7月3日(水)～7月10日(水)	1年：基礎実習
7月20日(土)	後援会第1回役員会 オープンキャンパス
8月2日(金)	前期授業終了
8月3日(土)	オープンキャンパス
8月5日(月)～8月9日(金)	前期定期試験
8月10日(土)～9月4日(水)	夏期休業

8月24日(土)	オープンキャンパス
8月31日(土)	オープンキャンパス(短大のみ)
8月26日(月)～9月5日(木)	学生懇談会①
8月9日(金)	2年：後期ガイダンス
9月2日(月)～10月2日(水)	2年：第3段階実習
9月5日(木)	1年：後期ガイダンス
9月6日(金)	1年：後期授業開始
9月26日(木)	国際福祉機器展見学(東京)
9月28日(土)	オープンキャンパス
10月5日(土)	信州介護学研究会
10月20日(日)	大学祭(信陽祭)(大学短大合同)
11月2日(土)	特別奨学生・指定校推薦I・公募制A推薦、 社会人A日程入試、留学生A、帰国子女A
11月8日(金)	1年：立誓式
11月11日(月)～22日(金)	1年：第1段階実習
11月23日(土)	留学生現地入試(ミャンマー)
11月30日(土)	2年：事例研究発表会
12月2日(月)～6日(金)	後期授業参観・公開
12月7日(土)	公募制B・自己推薦A入試
12月9日(月)	学友会長選挙
12月14日(土)	進学相談会
12月18日(水)	学友会クリスマス会(大学短大合同)
12月27日(金)	年内授業終了
12月28日(土)～1月5日(日)	冬期休業
1月6日(月)	授業再開
1月18日(土)～19日(日)	大学入試センター試験
1月21日(火)	後期授業終了
1月22日(水)～1月28日(火)	後期定期試験
1月26日(日)	2年：介護福祉士国家試験
1月29日(水)～2月7日(金)	1年：訪問介護実習
2月3日(月)	一般A日程、留学生B、帰国子女B入試
2月7日(金)	2年：卒業前ガイダンス 卒業単位発表 自己推薦B日程、社会人B日程入試
2月10日(月)～	春期休業開始
2月13日(木)	介護保険事業者との懇談会
2月15日(土)	進学相談会
2月17日(月)～2月28日(金)	1年：学生懇談会②
2月28日(金)	2年：卒業者発表
2月27日(木)	一般B日程入試
3月6日(金)	自己推薦C日程、社会人C日程入試
3月12日(木)	卒業式
3月23日(月)	自己推薦D日程、社会人D日程入試
3月25日(水)	介護福祉士国家試験合格発表